研究主題
「持続可能な社会の創り手を育てる社会科学習～地理的分野における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った単元構成の工夫～」

八王子市立第五中学校
教諭　西村　佳子

第１　主題設定の理由

平成 29 年告示の中学校学習指導要領前文では、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことが示されている。また、国立教育政策研究所の「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」では、持続可能な社会の創り手を育成するために、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」の「７つの能力・態度」を育むことが重要であるとされている。

私は、社会科教育がこれらの能力・態度を育む上で非常に重要な役割を果たすと考えている。学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編によれば、社会科は「主権者として持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に入れた、主体的な課題解決の態度の育成」が求められる科目であり、その実現のために ESD は重要な位置を占めているとされている。特に地理的分野の学びは、地域や国際社会の多様なつながりや課題に目を向けることで、生徒が広い視野を持ち、社会的な見方や考え方を深めることができる。また、地域や国際社会への理解を深める中で、他者や異文化を尊重する態度を育むことにもつながる。こうした学びを通じて、生徒は、グローバル化が急速に進む社会において主体的に生きる力を身に付けることができると考える。

このような背景を踏まえ、本研究では、「持続可能な社会の創り手を育てる社会科学習～地理的分野における個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った単元構成の工夫～」を研究主題として設定し、社会科地理的分野において、どのような実践が生徒にとって「７つの能力・態度」を効果的に高めることにつながるのかについて探究する。

第２　研究仮説

「７つの能力・態度」を育むためには、従来の教師主導型の授業から、生徒が主体的に調べたり話し合ったりする授業へと転換する必要がある。その際、社会科が得意な生徒だけではなく、社会科が苦手な生徒にとっても学びやすい環境を整えることが重要である。そのために、生徒が自分のペースで学べる「個別最適な学び」と、生徒同士が協力して課題に取組む「協働的な学び」の一体的充実が有効だと考え、以下のような仮説を立てた。

＜仮説＞
社会科において持続可能な社会の創り手を育てるために必要な「７つの能力・態度」を身に付けさせるためには、従来の教師主導の授業だけではなく、具体的な課題を設定し、それについて生徒が自ら調べたり、話し合ったりしながら追究・解決していく、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」を図る単元構成を工夫することが効果的なのではないだろうか。

第３　研究の内容と方法

１　基礎研究

（１）「持続可能な開発のための教育（ESD)」について

「持続可能な開発のための教育（ESD: Education for Sustainable Development)」とは、2002年にヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方である。この教育は、気候変動、資源の枯渇、貧困の拡大など、現代社会のさまざまな問題を自分自身の課題として捉え、問題の根本的な原因に目を向けながら、身近なところから行動を起こすことをめざしている。その結果、新しい価値観や行動の変化を促し、持続可能な社会の実現を図ることを目的としている。このような教育を実践することは、持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）の達成に不可欠であるとされており、2019年の国連総会決議でもその重要性が確認されている。また、学習指導要領が求める「持続可能な社会の創り手」を育成する上でも極めて重要な意義を持つ。

これを踏まえ、「日本の諸地域」の学習では、各地域が抱える課題に基づいて単元を貫く問いを設定し、その課題解決の方法を考える授業を実践した。今回の近畿地方の学習では、オーバーツーリズムの問題に焦点を当て、持続可能な観光の実現について考察する授業を行った。

（２）個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実について

『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申)』では、めざすべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現」が掲げられている。この趣旨は、急速な社会の変化や多様化する価値観のなかで、すべての子どもたちが自分自身の可能性を最大限に伸ばし、未来の社会で活躍できる力を育むことを目的としている。特に、教育現場では、子ども一人ひとりの特性や学習の進度、到達度に応じて適切な指導や支援を提供することが求められている。

個別最適な学びには、指導の個別化と学習の個性化の２つの柱がある。指導の個別化では、教師が子供の特性や進度に応じて教材や指導方法、学習時間を柔軟に調整することが重視される。一方、学習の個性化は、教師が子ども一人ひとりに適した学習活動や課題を提示し、子ども自身が最適な学び方を見つけられるよう支援する取組である。このような学びは、自己調整力や主体性を養うことにつながるとされている。

一方で、個別最適な学びが「孤立した学び」になるリスクにも注意が必要である。そこで、答申では、多様な他者との協力を通じてより深い学びを実現する「協働的な学び」の重要性が強調されている。この協働的な学びは、異なる背景や考え方を持つ他者との交流を通じて、より豊かな視点を得ることが目的である。例えば、班での話し合いを通じて、生徒一人ひとりのアイデアを統合し、新しい解決策を生み出す場面が挙げられる。このプロセスを通じて、子どもたちはコミュニケーション力やチームワークの重要性を学び、多様性を尊重する態度を育むことができる。

上記の内容を踏まえ、「日本の諸地域」の学習において、個別学習→協働学習→個別学習の流れを意識した単元構成を立案した。まず、個人で考えた内容を協働学習で他者の多様な意見に触れて深め、その成果を基に、最終的な考えを再び個人で整理できるように構成した。このプロセスを通じて、「７つの能力・態度」を育むことをめざした。

２　調査研究

本研究では、以下の方法で調査研究を実施した。

・ESD の実践や、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に関する文献等の調査を行い、理解を深めた上で授業実践を行う。なお、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った授業は日本の諸地域の学習に入った２学期初めより継続して実施している。

・生徒のレポートの内容を分析する。レポートでは、単元を貫く問いに対する答えと併せ、この単元の学習を通じて、学習前と比較して自分の学びがどのように深まったか、その学びをどのように今後に活かしていくかについて述べさせた。

・２学期の初めと終わりに、生徒に対して「７つの能力・態度」について、どれくらい身についていると考えるかに関するアンケートを実施し、その結果を分析する。

３　授業研究

（１）授業改善の取組

生徒たちに持続可能な社会の創り手を育てるために必要な「７つの能力・態度」を身に付けさせるために、以下の４点を意識した授業づくりを行った。

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った単元構成

生徒に「７つの能力・態度」を身に付けさせるため、従来の教師主導の講義型の授業ではなく、個別最適な学びと協働的な学びを計画的に単元の中に取り入れ、生徒主体で学ぶ単元構成とする。その際に、個別学習を行ってから協働学習を行うことによって、生徒が基礎的な知識を身に付け、自身の考えを持ってから話し合いを行えるようにする。それによって、学習に対する他者依存の姿勢を解消し、生徒の協働学習に対する意欲につなげることをめざす。その後、再び個別学習で課題を追究させることで、他者の考えも踏まえて自身の考えを深めることをめざす。

② 教科書との１人１台の学習用端末の併用による適切な情報収集

学習用端末を活用することで、生徒は資料や動画を何度も見直したり、知らなかった言葉を検索して調べたりするなど、自分に合った形で学習を進めることができ、生徒は学びの自己調整を図りながら課題に対する考えを深めることが可能となる。また、同じ課題であっても、生徒の考えや既得の知識によって、収集する情報が異なるため、それぞれの調査結果をグループで共有することで、多様な視点を得ながら課題に取り組むことができると考えられる。

しかし、学習用端末の効果的な活用によって個別最適な学びが実現できる一方、インターネット上には信頼性の低い情報も少なからず存在している。そのため、教科書で基本的な知識を身に付けてからインターネット上の情報収集を行わせる。その際は、いつ、どのような機関が出した情報なのか、教科書の内容と比較して情報が一致しているかどうかといった、情報の信頼性を評価するポイントを踏まえるように指導することで、情報を適切に判断する力を高めていく。

③ 学習班の活用による学びの深化

「協働的な学びを実質的なものにするためには、生徒同士の互恵的相互作用が必要であり、それを支えるソーシャルスキルの育成が不可欠」とされている。（熊谷・河村,2019,P.25）そのことを踏まえ、教員が生徒の学力や学習への取組状況を踏まえて意図的に編成した４名１組の学習班を活用し、生徒がお互いに意見を交流しやすくすることで、考えを深めることができるようにする。そして、協働的な学びを行う意義に気付かせる。

④ 振り返りを通じた学習内容の定着と学習意欲の向上

協働的な学びを通じて、課題に対する理解を深めた後に、改めて自分で単元を貫く問いに対する答えをまとめる学習を行い、この単元の学習を通して、どのようなことを学んだか、疑問点はどこか、単元を学ぶ前後で、課題に対する考えがどのように変化したかについて振り返る。それにより、学習内容の定着を図るとともに、自身の考えの深まりや成長を実感させることで、その後の学習に対する意欲につなげていく。

（２）検証授業（令和６年 11 月実施）

第２学年地理的分野「日本の諸地域　近畿地方」の単元において、検証授業を実施した。

（ア）実践の概要

本単元は、６時間構成で、以下のような単元構成の工夫を行った。

① 個別学習において、自分のペースで知識を深められるよう、十分に時間を確保した。その分、調べる内容を焦点化するために課題を設定し、第１時では近畿地方の各地域の地形や産業といった基礎的な知識を習得する時間、第２時では自分が担当する府県の魅力や課題について調べたり考えたりする時間とした。

② 第３時・第４時のグループワークでは、多面的・総合的に考える力を高められるような課題として、「持続可能な観光の視点を踏まえた観光プランの計画」を設定した。

③ 第６時は、ここまでの話し合いや発表を経て、自分はどのように考えたか、レポートにまとめる時間とした。

表１　単元指導計画

＜単元を貫く問い＞　住民にとっても観光客にとってもより良い近畿地方とは、どのような姿なのだろう？

○…評定に用いる評価　●…学習改善につなげる評価

時	学習形態	目標	◇学習内容 ・学習活動	評価規準・評価方法		
				知・技	思･判･表	主体
1	一斉 ↓ 個別	近畿地方の自然環境や産業について概観し、理解する。	◇近畿地方がどのような地域なのか知ろう。 ・近畿地方のようすを、写真資料を元に概観する。 ・近畿地方の自然環境や産業について教科書や地図帳を元に調べ、白地図にまとめる。 **→机間指導の際、情報が一部の産業に偏らないよう助言する。**	○ワークシート ○テスト	○テスト	●観察
2	個別	近畿地方の各地域の魅力や課題について調べ、理解する。	◇近畿地方には、どのような魅力や課題があるのだろう？ ・自分たちの班が担当する府県の魅力や課題について、教科書や	○テスト ●ワークシート	○テスト ●ワークシート	●観察

			インターネットを活用して調べ、まとめる。 **→教科書から情報収集をさせた上で、インターネットを使わせることで、基礎知識の定着を図る。**			
3	協働	より良い社会の実現を視野に、持続可能な観光を実現するプランを考える。	◇持続可能な観光を実現するためのプランを考えよう。 ・第２時で調べたことを踏まえ、学習班ごとに近畿地方における持続可能な観光プランを考え、スライドにまとめる。 **→実際のツアー広告やパンフレットを見本として、その地域の魅力を伝えられるプランを考える。**	●スライド	●スライド	●観察
4	協働					
5（本時）	協働	発表及び発表内容に対する振り返りを通じて、近畿地方のより良い未来について考えを深める。	◇作成したプランを発表し、より良い近畿地方の姿を考えよう。 ・各班のプランを発表する。 ・発表内容を振り返り、より良い近畿地方とするために大切だと思うポイントをまとめる。 **→最も地域の良さを伝えていると思うプランを選ばせ、それを選んだ理由から、より良い近畿地方とするために大切だと思うポイントを考えさせる。**	●発表	●発表	●観察 ●ワークシート
6	協働 ↓ 個別	発表内容を踏まえ、近畿地方のより良い未来の実現のためにどうしたらよいか考察し、表現する。	◇住民にとっても観光客にとってもより良い近畿地方とは、どのような姿なのだろう？ ・学習班で前回の発表を振り返り、住民の視点と観光客の視点からよりよい近畿地方とはどのような姿なのかを考える。 ・これまでの学習を元に、単元を貫く問いに対する答えを学習用端末でレポートにまとめる。 ・単元の振り返りを行う。 **→班の意見や考えだけにとらわれず、話し合いや発表を経て、自分は最終的にどう考えたかをまとめさせる。**		●観察 ●発表 ○レポート	●観察 ○レポート

（イ）考察

第１時・第２時の個別学習では、生徒たちが課題に沿って、教科書や学習用端末、パンフレットを活用しながら、自分のペースで学習をすすめる姿が見られた。この個別学習の成果を基に、第３時・第４時のグループワークでは、資料の中から根拠を示しつつ意見を出し合う姿が見られた。中には、京都におけるごみのポイ捨て問題に着目し、観光客にごみ拾いに参加してもらう代わりにお土産などの特典を与えるという、教員が想像しなかったようなアイデアも生まれた。教員がその実現性について問いかけると、生徒たちは海外の事例を引き合いに出してその効果を説明しており、自分たちの班の考えに自信を持っているようすがうかがえた。

図１　個別学習のようす

第５時の発表では、参観に来ていただいた先生方から、「住民視点と観光客視点で考えることができており、多面的・多角的に考えようとする姿勢が良かった。」「学習班による協働的な学びによって、考えを深めることができていた。」という声が上がった一方で、「このような学習形態で、知識は定着するのか？」という疑問の声も上がった。しかし、第６時で作成した生徒のレポートを見ると、学んだ知識を活用しながら、単元を貫く問いに答えているようすが見られた。以下にその内容を紹介する。

住民にとっても観光客にとってもより良い近畿地方の姿には３つの要素が入ると考えた。１つは、持続可能な観光だ。環境に配慮した観光地の開発や、地域資源を活用した観光プランが重要だと考えた。住民の生活環境を守りつつ、観光客にも魅力的な体験を提供することが求められると思った。２つは、地域文化の尊重だ。地域の伝統や文化を大切にし、それを観光資源として活用することで、観光客にとってもユニークな体験を提供できる。住民が誇りを持てる地域文化の発言が重要だと考えた。

３つは、地域経済の活性化だ。観光業が地域経済に貢献し、住民の雇用機会を増やすことが重要だと考えた。地元産品の販売や地域イベントの開催など、観光と地域経済の相乗効果を図ることができる。これらの要素が入っていると、より良い近畿地方の姿に近づいていくと考えた。

私は、さまざまな地域に観光客が集まる姿」がより良い近畿地方の姿なのではないかと考えます。具体的にいうと、インターネットを使い、知名度のあまりない地域の穴場や、景色や特産物などの魅力を動画配信アプリなどで動画にして投稿したり、インフルエンサーに正直なレビューをしてもらうなどして、世界の人々にその地域の魅力を発言し、今発展していないところに観光客を増やす、ということを行ったり、その観光を一度きりで終わらせないためにまた来たくなるようなこと（割引など）を行い、観光客を増やすなどのことが挙げられます。

これを、京都のオーバーツーリズムで悩んでいる住民の視点では、騒音問題に悩まなくて済むようになること、交通機関の利用がしやすくなることなどの良い点が挙げられます。また、栄えていない地域の住民の視点では、観光客が来ることで経済が回りやすくなること、過疎化の進行を抑えることができる、などの良い点があります。

観光客の視点では、混雑を回避することができる観光できる場所（観光スポット）が今までより増えるなどのことが良い点であると考えられます。

このようなことから、知名度のあまりない地域の知名度を上げ、「様々な地域に観光客が集まる姿」が住民にとっても観光客にとってもより良い近畿地方の姿なのだと考えました。

第４　研究の成果

①個別最適な学びと協働的な学びを通じた、「７つの能力・態度」の成長

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った単元構成を実施する上で事前と事後で、生徒に「７つの能力・態度が身についていると思うか。」という５段階評価アンケートを行ったところ、以下のような結果となった。（５：十分に身についている～１：身についていない）

図２　事前アンケートの結果

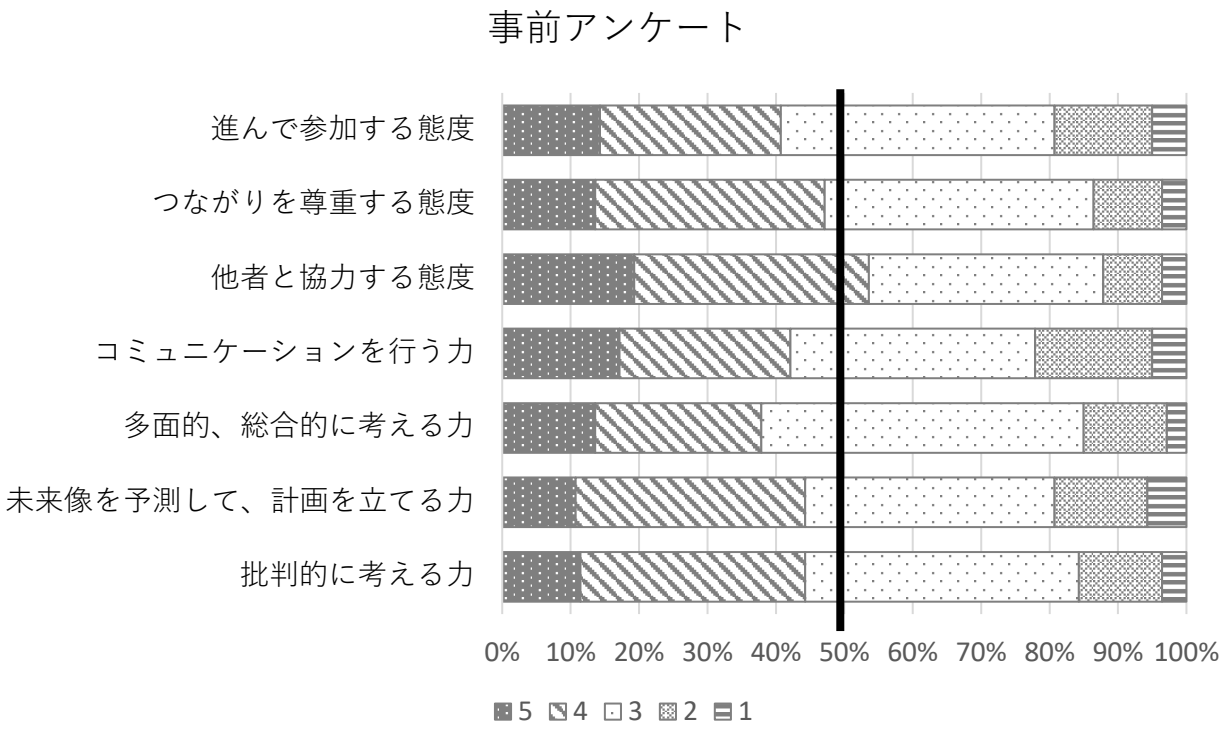
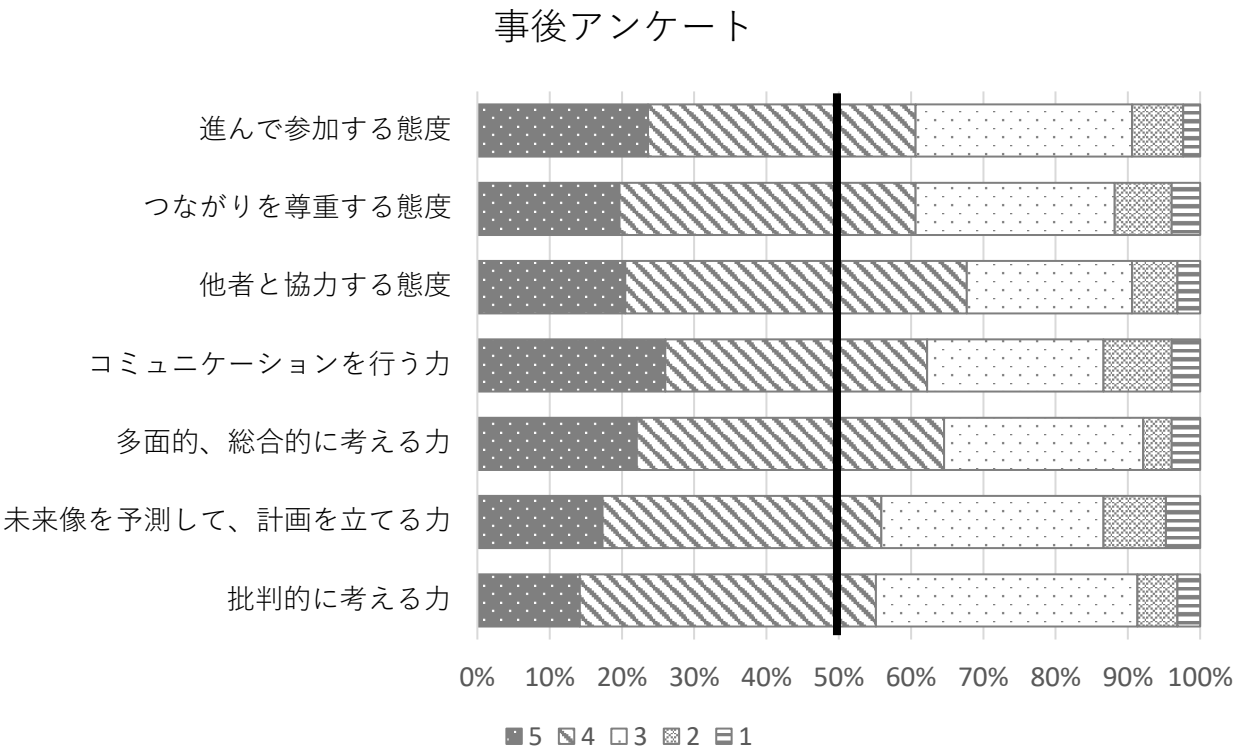


図３　事後アンケートの結果



事前アンケートでは「十分に身についている」（５を選択した生徒）「身についている」（４を選択した生徒）がほぼ半数を下回っていたのに対し、事後アンケートでは、全ての項目で半数を上回った。また、以下に、事後アンケートにおいて、特に成長したと思う力について述べた、生徒の声を紹介する。

（最も成長したと思うのは、）コミュニケーションを行う力です。なぜなら、単元のまとめのレポートを書く際に自分の知識だけではレポートがうまく書けないことがあるけれど、学習班で話し合い理解を深めたり他の人の別視点の考え方を知ることでレポートを上手くまとめて書いたりすることができたからです。

他者と協力する態度が成長したと思う。以前は他者の意見と自分の意見が違っていると、ただ別の意見を持つ人としてとらえていたが、現在では違う意見の中でも自分の意見との共通点を探すようになり、とらえ方によってはさらに自分の意見を良くすることができるヒントになるという事が分かった。

つながりを尊重する態度が特に向上したと思う。なぜなら、そこの地域ではこのようなことがあるからこんなことが盛んだというように沢山のつながりを見つけることができたからだ。

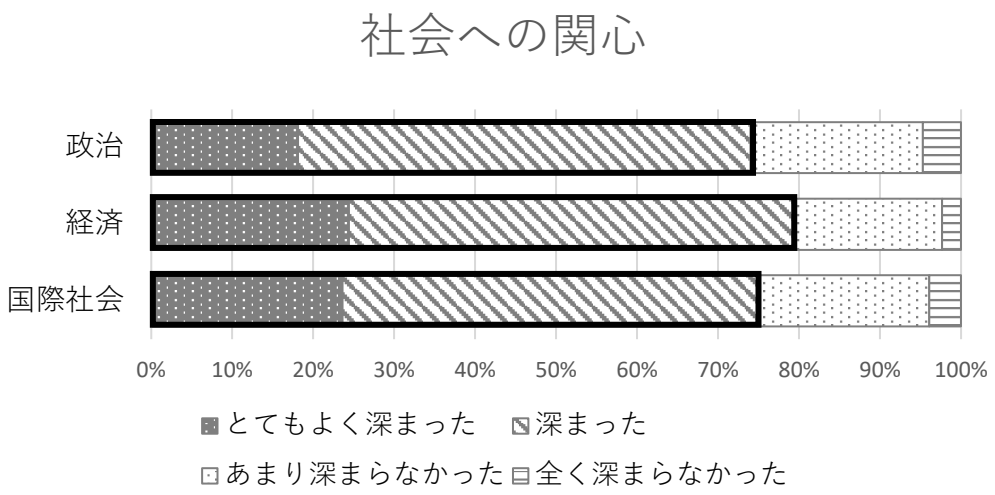
多面的、総合的に考える力が向上したと思う。ツアーを作る授業で、どうしたら問題を解決できるか、どんな風だったら利用してもらえるか、どうやったら楽しんで知ってもらえるかと考えるとき、多くの見え方を頭の中に入れた状態で考えないといけないから。

このように、生徒が授業を通じて自身の成長を実感していることから、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った単元構成の工夫は、一定の成果が見られたと考える。

②ESD の実践による、生徒の社会への関心の高まり

事後アンケートでは、「７つの能力・態度」に対する質問と併せて、社会に対する関心の深まりについて、政治、経済、国際社会の３つの視点から質問した。持続可能な社会を創ろうとする意欲を高めるためには、社会に対する関心は不可欠であると考えたためだ。その結果は、以下の通りとなった。

図４　社会への関心の深まりについて



アンケート結果から、多くの生徒の社会に対する関心が高まったことがうかがえる。そして、そのように考えた理由として、以下のような意見が挙げられた。

農林水産業や工業などについての学習を通して、何が盛んかを知り、経済にどのような影響をあたえているかをたくさん学び、興味を持ったから。また、外国との輸出や輸入によってその地域がどのような影響を受けたのか知り、関心が深まったから。

２学期では主に地理を学習したが、学習前では日本の国として全体の課題程度ならば想像できるが、細かい地方の課題はあまり考えられなかった。しかし、地理の学習をしたことで、より現在の日本の細かな課題が見えてくるようになった。だから、私はより日本の現状を知りたいと考えた。

このように、授業において、現代社会の問題を取り上げ、考えさせることで、生徒の社会に対する関心を高めることができた。今後とも、このような授業を通じて、生徒の社会に対する関心を高め、持続可能な社会の創り手として育てていきたいと考える。

第５　今後の課題

事後アンケートにおいて、今後の授業で行って欲しいこととして、

重要な単語についてもっと詳しく解説して欲しいです。

グループでの話し合い活動や、パソコンで調べることではわからないことがあるので、話し合い以外の先生が黒板に書いて説明する授業を前より多くして欲しい。

このように、教師による説明を求める声が見られた。この背景には、教師が言ったことを覚えればよいという学習姿勢になってしまっていることや、自分たちで調べただけでは自信が持てない、正解かどうかがわからないという状況があると考えられる。そのため、個別学習においては、机間指導を通じて調べ方のヒントを与えたり、情報の入手方法を確認し、その情報が正確かどうかを確かめるためにはどうしたら良いか、助言をしたりする必要があるといえる。一方で、

１時間、友達と自由にわからないところを教え合ったり先生に質問したりして、学びを深められる取り組みをしてほしい。なぜなら、相手に教え合ったり、教わったりすると、いろいろな人のさまざまな視点で、物事を客観的に見られるし、教えると自分も学びが深まって成長できると考えたから。

今までは、班員がそれぞれ違う分野のことを詳しく調べていたが、次から、自分の案のほうが、良いと思わせる議論（対決）を行いたい。このようにすれば、戦いになれば燃える子もいるし、どんな反論が来てもすべて答えられるくらい調べるので、全員が、有意義な時間になると思う。

このように、個別学習や協働学習の意義を理解し、自分たちで考えたり工夫したりして学びを深めたいと考えている生徒の声もある。このような生徒を増やしていくため、今後も継続して個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図った授業づくりを行っていくことが大切であると考える。

参考文献

文部科学省（2017）
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）

文部科学省（2017）
中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編

中央教育審議会（2021 年）
令和の日本型学校教育の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~

奈須 正裕（2021）
「個別最適な学びと協働的な学び」東洋館出版

角屋 重樹 （2012）
学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕

熊谷 圭二郎・河村 茂雄（2019）
学級経営心理学研究 第 9 巻 第 1 号
協働的学習に対する生徒の意識に関する研究 ―修正版グラウンデッド・セオリーを用いて―

森山 賢一（2021）
玉川大学教師教育リサーチセンター年報 第 12 号
「個別最適な学び・協働的な学び」と学力

補助資料

＜検証授業　本時案＞

（１）本時の目標

発表及び発表内容に対する振り返りを通じて、近畿地方のより良い未来について考えを深める。

（２）本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点、配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 （5分）	○発表の流れを確認	・発表の際は、聞き手を見ること、声の大きさや間の取り方、身振りといった伝える工夫をすることを伝える。	
展開 （40分）	○発表（40分） ・学習班ごとに考えた観光プランを４程度で発表する。 ・聞いている生徒はワークシートに発表の内容や評価を記入する。	・ワークシートへの記入を通じて、自分たちでは気づかなかった視点や、他者に伝えるための発表の工夫に気付かせる。	＜知識・技能＞ 地図や資料を活用し、近畿地方の地域的特色を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。（発表） ＜思考・判断・表現＞ 近畿地方の地域的特色を踏まえて、近畿地方におけるより良い社会の実現を視野に、地域的課題について多面的・多角的に考察し、表現している。（発表）
まとめ （5分）	○振り返り ・発表内容を踏まえ、より良い近畿地方をめざすために大切だと思ったポイントをワークシートにまとめる。		＜主体的に学習に取り組む態度＞ 近畿地方について、より良い社会の実現を視野に、そこでみられる課題とその対策について主体的に追究しようとしている。（ワークシート）

＜事前アンケートの内容＞ 有効回答数：140

以下に挙げる７つの能力・態度が自分に身に付いていると思うか、答えてください。

（１：身についていない～５：十分に身についている）

・批判的に考える力（合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて物事を深く考え、判断する力）

1	2	3	4	5
５名	17 名	56 名	46 名	16 名

・未来像を予測して、計画を立てる力（過去や現在の状況を踏まえ、あるべき未来像を予想し、他者と共有しながら話し合い、物事を計画する力）

1	2	3	4	5
８名	19 名	51 名	47 名	15 名

・多面的、総合的に考える力（人、もの、こと、社会、自然などとのつながりや関わり、システムを理解し、それを様々な角度から総合的に考える力）

1	2	3	4	5
４名	17 名	66 名	34 名	19 名

・コミュニケーションを行う力（自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力）

1	2	3	4	5
７名	24 名	50 名	35 名	24 名

・他者と協力する態度（他者の立場に立ち、その考えや行動に共感するとともに、協力して物事を進めようとする態度）

1	2	3	4	5
５名	12 名	48 名	48 名	27 名

・つながりを尊重する態度（人、もの、こと、社会、自然などと自分とのつながりや関わりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度）

1	2	3	4	5
５名	14 名	55 名	47 名	19 名

・進んで参加する態度（集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を踏まえた上で、物事に自主的、主体的に参加しようとする態度）

1	2	3	4	5
７名	20 名	56 名	37 名	20 名

＜事後アンケート＞　有効回答数：129

（１）以下に挙げる７つの能力・態度が自分に身に付いていると思うか、答えてください。

（１：身についていない～５：十分に身についている）

・批判的に考える力（合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて物事を深く考え、判断する力）

1	2	3	4	5
４名	７名	47 名	52 名	19 名

・未来像を予測して、計画を立てる力（過去や現在の状況を踏まえ、あるべき未来像を予想し、他者と共有しながら話し合い、物事を計画する力）

1	2	3	4	5
６名	11 名	40 名	49 名	23 名

・多面的、総合的に考える力（人、もの、こと、社会、自然などとのつながりや関わり、システムを理解し、それを様々な角度から総合的に考える力）

1	2	3	4	5
５名	５名	36 名	54 名	29 名

・コミュニケーションを行う力（自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力）

1	2	3	4	5
５名	12 名	32 名	46 名	34 名

・他者と協力する態度（他者の立場に立ち、その考えや行動に共感するとともに、協力して物事を進めようとする態度）

1	2	3	4	5
４名	８名	30 名	60 名	27 名

・つながりを尊重する態度（人、もの、こと、社会、自然などと自分とのつながりや関わりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度）

1	2	3	4	5
５名	10 名	36 名	52 名	26 名

・進んで参加する態度（集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を踏まえた上で、物事に自主的、主体的に参加しようとする態度）

1	2	3	4	5
３名	９名	39 名	47 名	31 名

（２）７つの能力・態度のうち、特に向上したと思うものを１つ挙げて、成長を感じた場面やそう考えた理由を挙げてください。

（３）２学期の学習を通じて、社会（世の中）に対する関心は深まりましたか？

	全く 深まらなかった	あまり 深まらなかった	深まった	とても よく深まった
政治	７名	27 名	71 名	24 名
経済	４名	23 名	70 名	32 名
国際社会	６名	27 名	65 名	31 名

（４）（３）のように考えた理由を述べてください。

（５）授業以外の場面で、授業内容に関して自主的に考えたり、調べたりしたことがあれば、挙げてください。

（６）今後、授業の中でこのような取り組みをしてほしいと思うことがあれば書いてください。